

シンポジウム
社会で守る子どもの安全
～「ネットの声」を分析してみたてわかったこと～

アンケート集計まとめ



調査対象者

対 象 本シンポジウムに申し込みをした人
該当者 48人
回答者 28人 (58%)

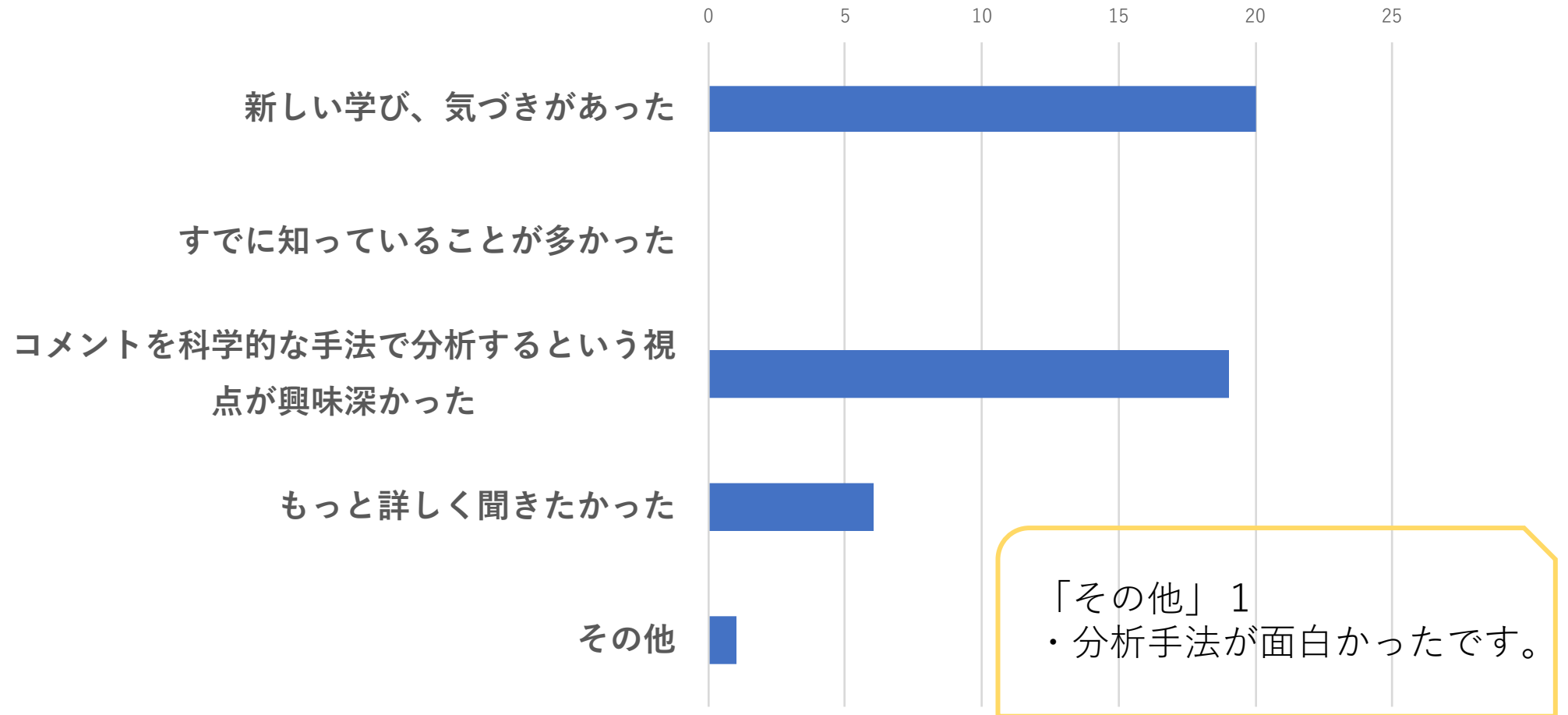
調査期間

2019年3月4日～3月8日

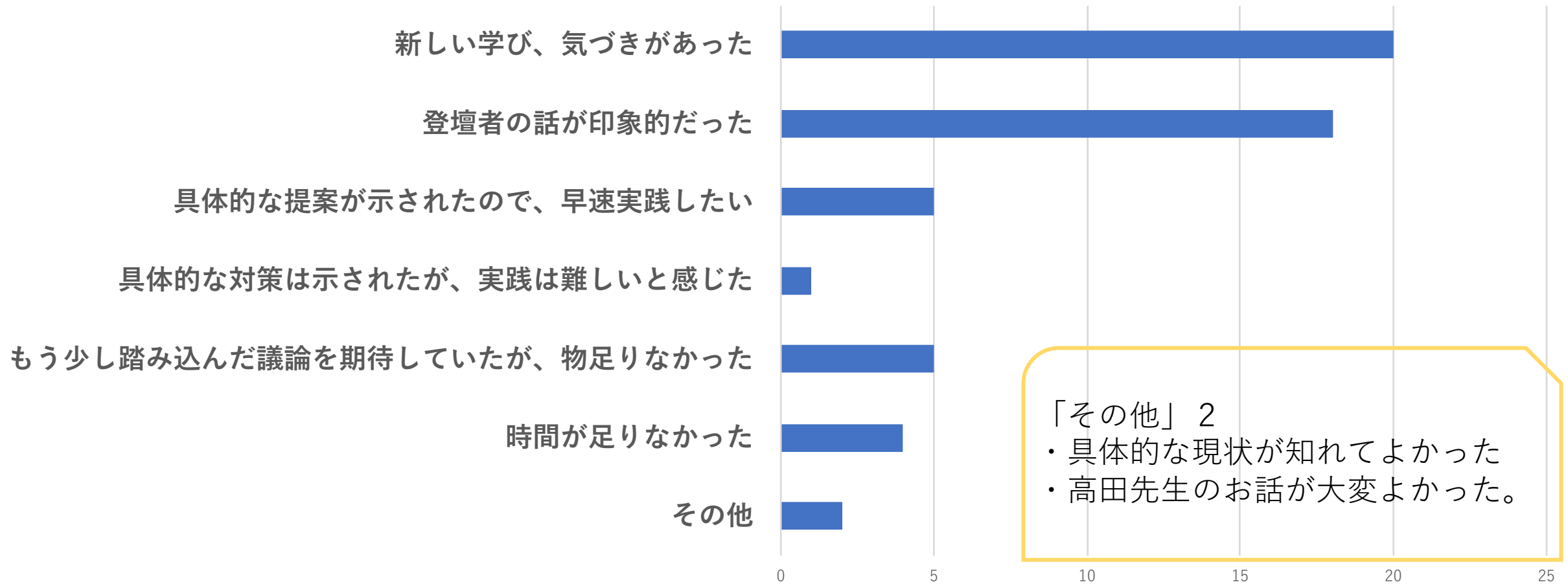


報告

Yahoo!ニュースに寄せられたコメント分析の結果

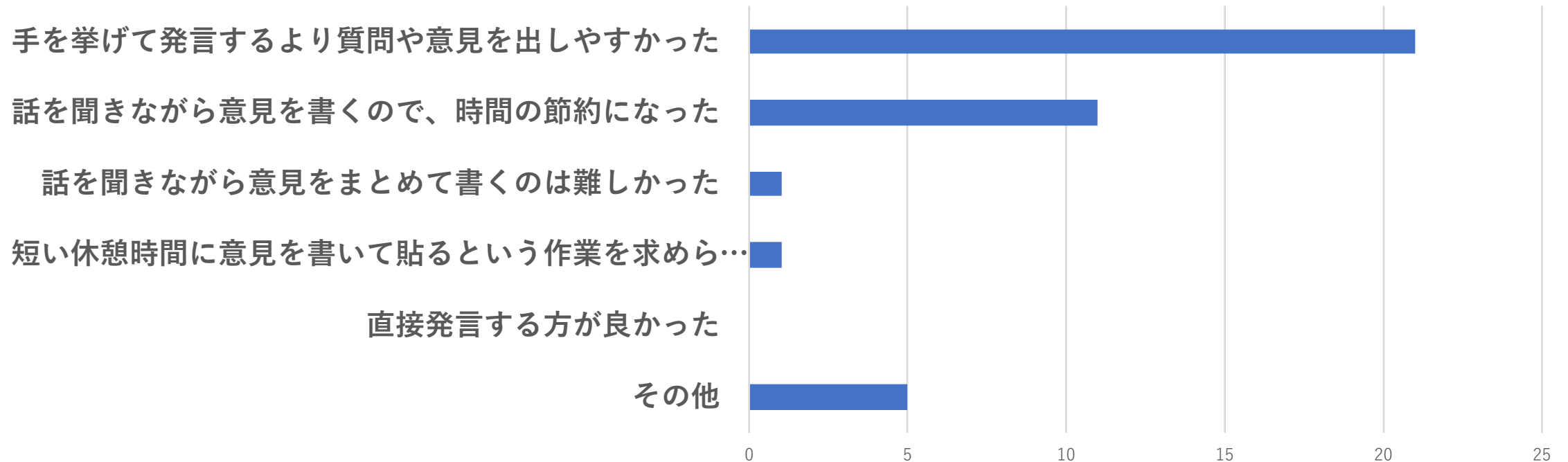


対談 滝沢卓さん、高田昌幸さん、西田佳史



手法

質問や意見を付箋に書いて共有する方法



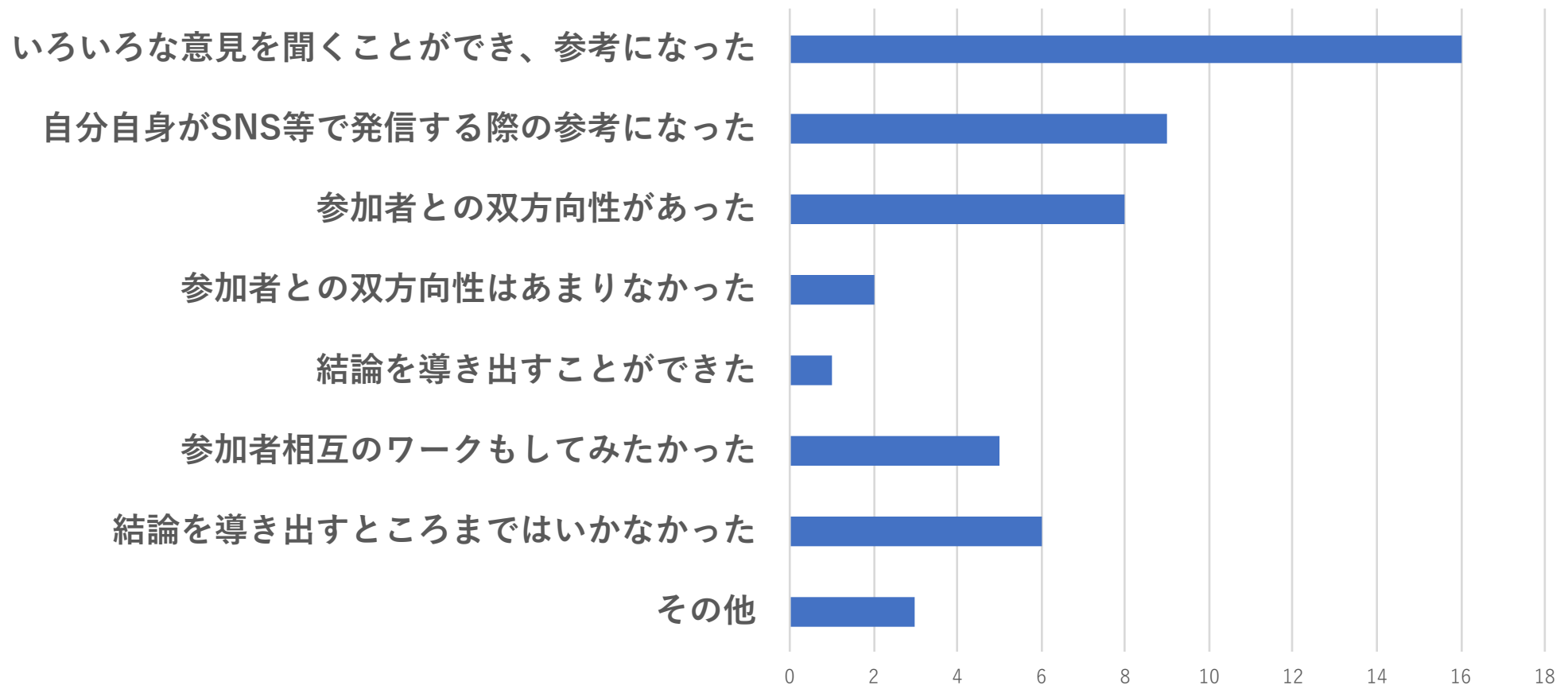
手法

質問や意見を付箋に書いて共有する方法

「その他」 5

- ・話を聞きながら書くというよりは、休憩時間に考えながら書いた。
- ・発言だと時間がかかってしまうので、良いと思います。
- ・付箋を読み上げられた人は、希望者のみ口頭で補足などつけて質問し、必要に応じて若干の再質問などが出来てより一つ一つの質問を深掘りした面白い回答を引き出せるのではと感じた。
- ・参加者の関心度の高さが見える、コメントの多さでした。そういう意味でも、クオリティの高いシンポジウムなのだと思います。
- ・付箋に意見や質問を書くという趣旨がよく伝わっていなかった。

ふりかえり～参加者のコメントを中心に～ 滝沢 卓さん、高田 昌幸さん、西田 佳史、山中 龍宏

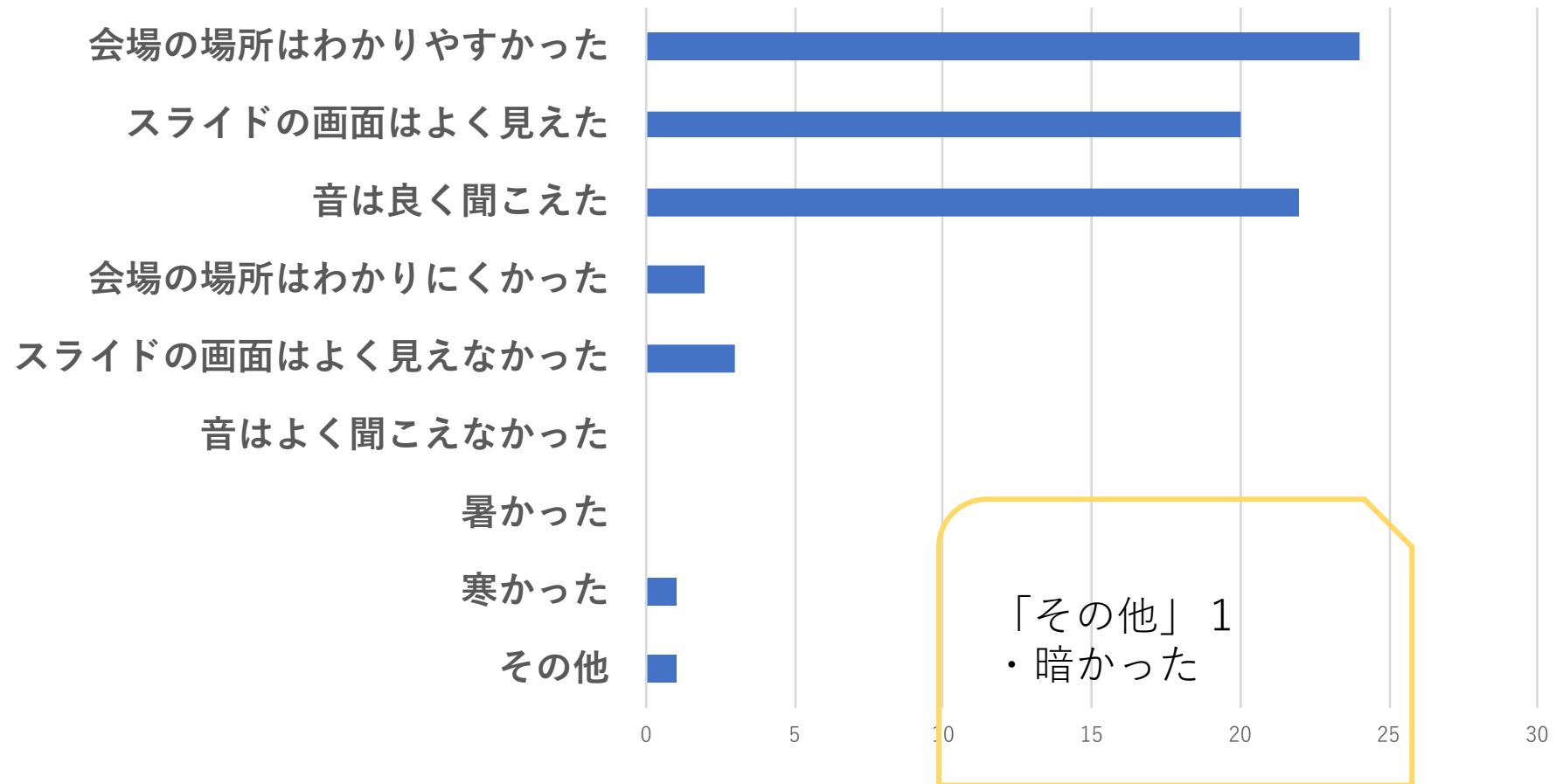


ふりかえり～参加者のコメントを中心に～ 滝沢 卓さん、高田 昌幸さん、西田 佳史、山中 龍宏

「その他」3

- ・もう少し時間があってもよかったかも。
- ・参加者の構成（年齢、職業、活動との関わり等の内訳）がわかると良かった。
- ・短時間での仕分け、どれを選ぶか、など、司会者の力量が高くストレスを感じることなく参加できました。

会場



今後取り上げてほしいテーマ①

- ・メーカーが啓発活動とモノづくりを両立できた具体的な事例があれば・・・。
- ・教育活動中の事故、いじめ自殺
- ・教育者（幼稚園・保育園等の運営者）から幼稚園訪問等に対しての意見を聞きたい。
- ・山中先生のオープニングのご挨拶で、「伝わったか検証する必要あり」、そこまでを含めて啓発活動である、という点、さらに検討要だと感じている。
- ・子どもの安全に関する消費者自身も気づいていない製品のニーズ（メーカーやサービス提供者の関心が高いと思われる）
- ・チャイルド・デス・レビューの実践例、具体例をテーマにして欲しい。
- ・保育現場は玉石混合状態です。待機児童問題で、安易に参入する事業所も多いですし。保育園の安全面での正当な評価ができる指標などを作ってもらいたいと思っています。それを検討するような内容はどうでしょうか？

今後取り上げてほしいテーマ②

- ・ 海外の参考になる事例なども発表してもらって、日本で取り入れられるものなどを専門家や企業でディスカッションしてほしい
- ・ ネット以外での子育て支援に関する情報発信について。子育て情報の収集について感心の低い保護者に対しての有効な方法など



シンポジウム全体を通しての意見や感想①

- ・興味のない層にわかりやすく訴える方法について、参加者みんなで議論したい
- ・ネット以外での子育て支援に関しての情報発信について。子育て情報の収集について感心の低い保護者に対しての有効な方法など
- ・海外の参考になる事例なども発表してもらって、日本で取り入れられるものなどを専門家や企業でディスカッションしてほしい
- ・初めての参加なので、各先生方の歴史のある根気強い取り組みに敬服しました。
- ・訴求対象者の入れ替わりに対して、どう継続的なアプローチをしていくのか。広報啓蒙以外に、実活動の拡大が必要だとして、実際はまだまだやることが多く大変だなと感じます。考えを整理する良い機会だったと思います。
- ・体調不良のため休憩後に失礼しました。とくに高田さんのお話が興味深かったです。

シンポジウム全体を通しての意見や感想②

- ・ ネットにしても紙面にしても、メディアからの発信で消費者の行動や考え方を変容させることは出来ません。本当に行動変容させるためには、2段階、3段階のアプローチが必要です。その意味で、テーマ自体に少し無理があったように感じました。愚答で申し訳ございません。
- ・ 今回のシンポジウムは大変良かったです。
- ・ 個別の傷害予防の取り組みに関することとそれをどうやって社会で共有していくかという方法論は分けて考えていった方が頭の整理はやりやすそうだなと感じました。
- ・ 伝え方の難しさを痛感し、参加させていただきましたが、具体的な解決には遠かったように感じました。
- ・ 済みません、都合により参加出来ませんでした。
- ・ 新聞に連載された「小さい命の…」に対する反応と、Yahooニュースの反応で明らかな差があったか、(つまり読者層の違いが伝わり方に影響しているか) 関心がある。
- ・ 貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

シンポジウム全体を通しての意見や感想③

- ・ 様々な立場の人が参加できるとよい。
- ・ 子どもの命に関わる事故、事件におけるネットの反応がよくわかったのですが、どうしても埋もれがちなのは、その事故、事件の周辺にいる子どもたちの声のように思います。今回の野田市の虐待の事件でも、当の子どもたちも言いたいことがあるのではないかと？児童福祉法改正で、子どもの意見表明権が明記されるとのことですが、当の子どもたちの声を、ネットも、メディアも、我々も、くみ上げる必要があるのではないかと？そんな問題意識をもっています。
- ・ 少ない人数で準備され、お疲れ様です。お手伝いできず、恐縮です。
- ・ 「ネットの声」の分析は、その時代の一部が反映されて開発分野などに適しているのではないかと思う。目的(ターゲット)が明確であれば十分に個人のできることの幅が広がりそれらを形にできるのではないかと思う。ただ、専門家の視線での十分な検討も必要であると考え。新しい展開を考えるきっかけとなった。
- ・ 全体的に非常に学びの多い回でした。一点、3/3は娘と家でひなまつりで一緒に過ごしたいと思っていたので別の日が有難かった。

シンポジウム全体を通しての意見や感想④

- ・東京マラソンのため交通規制がかかっていたので、事前にその案内をいただけるとよかったです。
- ・今回のシンポジウムはキッズデザイン協議会で取り組んでいるテーマにも関連しており大変参考になりました。機会がありましたらセミナー等参加させていただきたいと思っています。よろしく願います。
- ・病院の救急受診の中で、年間数千件の傷害データと接していますが、パック型洗剤の誤飲事故で受診する子どもが確実に減っているのを実感しています。メーカーのP&Gが自ら注意喚起を行うという勇気あるCM、それをテレビで流していたこと、子どもが実演するような分かりやすい動画で視覚に訴えた、そのCMを見ていたお母さんたちの口コミもありそうで、いろんな要因が功を奏したのではないかと推測しています。情報に溢れる世の中になってきましたが、情報を受け取る方法も多様化しています。新聞、インターネット、SNS、テレビ、雑誌…多方面から情報発信をしていくことが必要かと思えます。どのように伝わるかということが大きなテーマでしたが、どのツールでも一長一短があります。子どもの事故予防は、興味のある人ない人で、温度差や受け取り方が違うのは仕方ないことかもしれません。情報共有できることをまずは目指して、様々な手法で繰り返し情報発信していくことが大切かと思えます。

シンポジウム全体を通しての意見や感想⑤

- ・協力し合って社会を変えていくと言う共通理解のもと、又出て来る反論に対してどのような伝え方をして行くか？まだまだ深く掘り下げていきたいと思いました。
- ・実際に事故が起きて、現在どのような対応をしているなど企業の取り組みなど企業や記者の方の取材を教えてください

